香長オアシス　校内相撲大会

本校はシンボルが２つあります。一つはビオトープ「香長オアシス」です。平成１４年に完成し、今でも地域の方が定期的に木を剪定してくれたり、池の掃除を行ってくれており、四季折々の植物や虫などの観察の学習に利用しています。

もう一つは平成８年に完成した相撲場です。今年も校内相撲大会が開催され、土俵保存会の皆さんが土俵と周囲を整備してくださり、当日は学年ごとの個人戦と低・高学年の団体戦で競いました。あと一歩まで追い詰めての逆転負けに涙を見せる児童や、粘って粘って投げ技を決める児童など一番一番、手に汗をにぎる取組となりました。

最後に土俵保存会長の小野山さんから「元気をもらいました、ありがとう」との言葉をいただきました。本校の伝統として続けていきたい行事です。保存会の皆さん、ありがとうございました。

◀土俵保存会長 小野山さん

生活リズムを身につけて、元気な身体をつくろう！

今年も、保育園の園庭にある梅の木にたくさんの実がなりました。地面に落ちた梅の実を拾って、ごちそう作りをして遊んでいるうちに、昨年のことを思い出した子ども達が「梅、漬けたい」「ジュース作りたい」と言い始め、みんなで梅の実を採ることにしました。木を揺らして梅の実を落とし、かごで受けたり拾ったりして収穫しました。みんなで、一緒につまようじでヘタを取り、きれいに洗って干した梅に氷砂糖を入れて漬けました。「ジュースできた？」「色、変わってきた？」「いつ出来る？」と毎日様子を見ながら、梅ジュースが出来ることを楽しみに待っています。

５月の初めには、園庭のさくらんぼの実が赤く色づきました。みんなで採ったさくらんぼと、お散歩に行って採ってきた野いちごを「給食の先生ー！ジャム作って」と子ども達が調理室へ持って行きました。その日のおやつの時間に、出来立てのジャムをクラッカーにのせて食べ「甘ーい、美味しい」「いい匂いがする」とみんな大喜びでした。

新改保育園では、自然に恵まれた環境の中で元気いっぱい遊び、食べることを楽しみ、子ども達が意欲的に食に関わる体験を積み重ねていくことを大切に、生きる力の基となる食育に取り組んでいます。

地域とともに伸びゆく子どもを育てる 香長小学校

６０名の尊い命が失われた「繁藤災害」から５１年がたちました。香長小学校では、毎年７月５日にあわせて、全校で千羽鶴を折り、６年生が代表として慰霊祭に参列しています。

今年は、高知県教育委員会から学校安全総合推進事業（災害安全）の拠点校に指定されました。校区では、「繁藤災害」以外にも’９８豪雨の際の土石流や、鉄道が寸断される山崩れなど多くの災害を経験しています。また、香美市のハザードマップでも急傾斜地などの指定を受けている場所が多くあります。

学校での防災学習を通して、南海トラフ地震や大雨などの自然災害を知るとともに、自分の命を守れるような行動力をつけていきたいと考えています。あわせて、今までの環境学習で学んできたことを防災とつなげていければと考えています。

【具体例】
●間伐をして森を守ることがどうして防災につながるのかな？
●大雨が降ったら、新改川はどんなになるのかな？

◀昨年度の間伐体験と新改川の生き物調査の様子

香長小学校創立１３０周年

本校は、長岡郡香長尋常小学校として明治２６(１８９３)年に設立されてから、今年で創立１３０周年を迎えました。

香長小学校創立百周年記念誌『陶の里』には、平成５年５月１６日に創立百周年記念行事が行われたと記載されています。記念事業として在校生の作文や絵などを入れたタイムカプセルを埋設し、３０年後に開封することになっていました。

そのタイムカプセルを令和５年５月４日に開封しました。当日は、３０年前の在校生や先生方が集まり、無事にタイムカプセルを掘り出し、開封しました。タイムカプセルから厳重に真空パックされた思い出が出てきて、作文や絵を見せ合いながら、思い出話に花が咲いていました。